

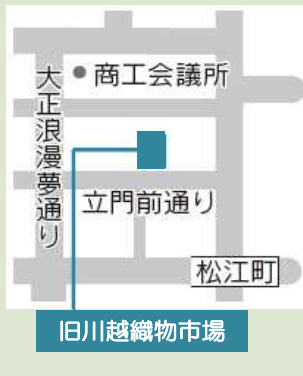
旧川越織物市場

川越は幕末から明治時代初めごろまで国内屈指の織物の集散地として流行ファッションをリードしていました。しかし明治時代末ごろには、競争の激化や地域経済の弱体化により衰退し始めました。そこで明治43年に、起死回生をかけて建てられたのが旧川越織物市場です。しかし、時代の流れには勝てず市場は開場からわずか7～8年でその役割を終えました。

立門前通りの北側にひっそりとたたずむ旧市場。通りから見える姿はごく一部ですが、奥には、木造2階建ての長屋が向かい合っています。奥行きのある土庇や格子戸と板戸を組み合わせた二重の揚げ戸、建物の間の広場など、当時の市場の特徴がよく表れています。同市場は、閉場後、平成13年まで長屋住居として使われていました。そのため当時の姿がそのまま残り、産業遺構としての希少性が高いことから、同じ敷地内の旧栄養食配給所とともに、市の文化財に指定されています。地元の方の協力で不定期で開放され、築後100年以上経った今でも大切にされています。



施設概要

施設名称	旧川越織物市場	
所在地	川越市松江町2丁目11番10 12番4	
面積	土地：1,475.60m ² 建物：1,050.17m ² (延床面積)	
建築年	西暦1910年(明治43年)	
これまでの経緯	平成14年12月 寄附により建物取得 平成17年3月 市指定文化財(建造物)に指定 平成25年6月 用地取得(国土交通省・社会資本整備総合交付金対象)	
現在の状況	屋根の損傷が激しかったため、仮設の覆い屋をかけ、損傷の進行を防いでいるが、経年劣化により各部の老朽化が進んでいる状況にある。	
利用の実態	暫定的な活用として、イベント利用や映画の撮影等が行われており、毎年度2,000人以上が来場している。	

川越市の事業概要

旧川越織物市場整備事業

事業概要

歴史的風致形成建造物(平成27年3月指定)の旧川越織物市場は、屋根の損傷が激しかったため、仮設の覆い屋をかけ、損傷の進行を防いでいるが、経年劣化による各部の老朽化は確実に進んでいる。このため、今後の再生活用を前提とした土地の買戻しと、旧栄養食配給所の建物を含む保存修理と外構整備を実施する。

事業計画期間

平成25年度～令和5年度

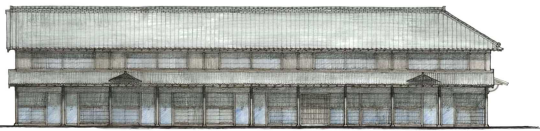
財源

平成25年度～平成26年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)
平成27年度～令和6年度 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

令和2年度の主な取組(令和3年4月1日現在)

市指定文化財である旧川越織物市場と旧栄養食配給所の整備工事を2期に分けて進める計画とし、第1期分の整備として、旧川越織物市場東棟・西棟ほか整備工事に着手した。

また、旧川越織物市場を若手クリエイター等を対象とした文化創造インキュベーション施設として活用するため、施設利用に係るニーズ調査を実施するとともに、施設運営にあたっての有識者等へのヒアリングを行った。



旧川越織物市場東棟西立面図(復原図)

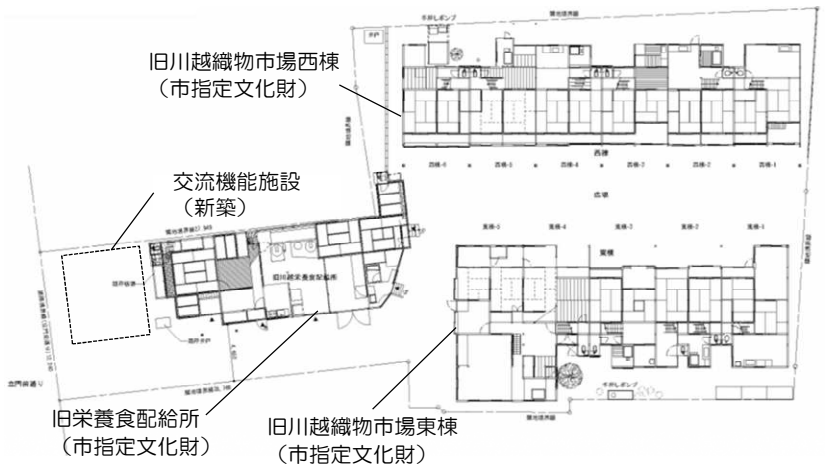


完成イメージ図



文化創造インキュベーション施設とは

若手のクリエイター等が創業支援を受けながら一定期間(最長3年程度)活動を行うための施設



旧川越織物市場配置図(整備前)

暫定活用(イベント)



H28.4.17
手づくり食市+めきき市 in 織物市場
来場者数 1,200人



H28.7.30
夕涼み会
来場者数 400人



H28.11.19-20
アートクラフト手づくり市 in 織物市場
来場者数 2,100人